

# 安芸毛利氏と郡山城

安芸高田市歴史民俗博物館 副館長 秋本哲治

## ◆はじめに

- ・南宮山、松尾山に布陣した毛利一族（毛利秀元、吉川広家、安国寺恵瓊、小早川秀秋）
- ・大河ドラマと意外と密接な毛利氏（鎌倉～戦国～幕末）

## 1. 安芸毛利氏のふるさと、広島県安芸高田市

### (1) 市の概要・立地

- ・平成16年、高田郡6町の合併により誕生、人口約27,000人の中山間地
- ・中国地方のほぼ中心に位置。南は広島市、北は島根県。中心部吉田には広島市内からバス

### (2) 安芸毛利氏の本拠地

- ・南北朝期から戦国末期まで、250年間余り安芸毛利氏の本拠地「吉田」
- ・「三本の矢」で知られる毛利元就生涯の地として、郡山城や元就墓所等多くの史跡



## 2. 安芸毛利氏の誕生（相模～越後～河内～安芸）

### (1) 毛利氏発祥の地、相模国毛利荘

- ・元暦元年(1184) 大江広元、京より源頼朝に招かれて鎌倉に下向
- ・建保元年(1213)頃、相模国毛利荘(現厚木市)に広元の4男季光が土着し、毛利を名乗る
- ・広元が安芸国吉田荘を得るが、宝治元年(1247年)宝治合戦により、相模毛利氏滅亡

### (2) 生き残った毛利氏の本拠、越後国佐橋荘

- ・季光の4男経光は生き延び、越後国佐橋荘(現柏崎市)に拠点を置く
- ・その後、毛利時親(経光の4男)が京都で六波羅評定衆(幕府官僚)として勤務

### (3) 時親、河内国加賀田郷へ

- ・時親、鎌倉末期に河内国加賀田郷(河内長野市)に移り隠居
- ・この頃、多聞丸(楠正成)の師として兵法を伝授との伝承(三日市町駅前に石像あり)

### (4) 毛利氏、安芸国吉田荘へ

- ・元亨3年(1323年)、この頃までに親衡(時親の孫)が安芸国北部の吉田荘に入る
- ・建武3年(1336)、毛利時親、河内国から吉田荘へ入る→安芸毛利氏始まる

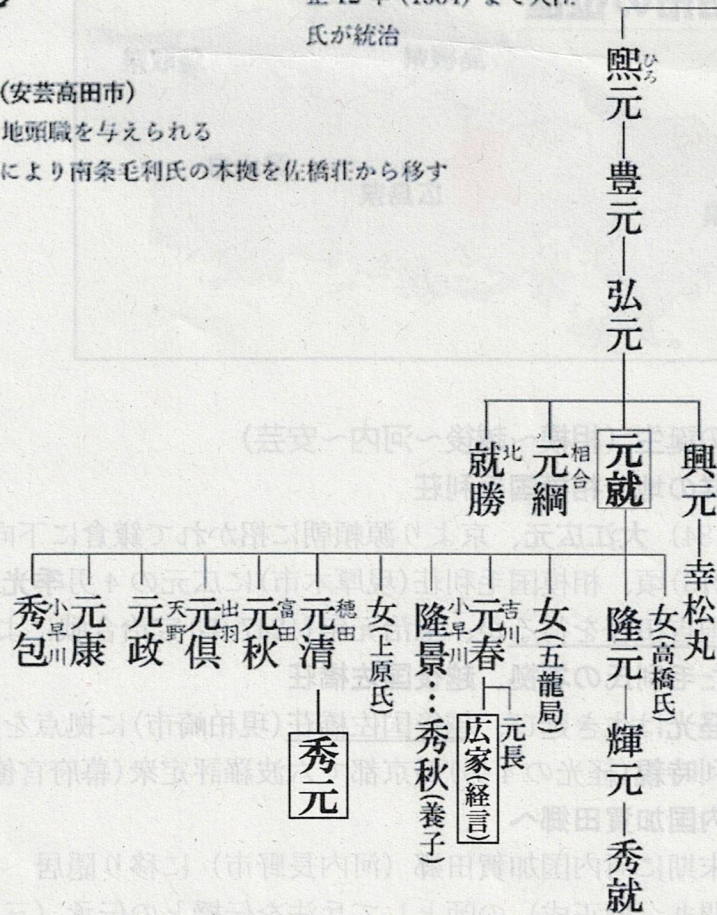
# 大江氏～安芸毛利氏の変遷

- ① 京（京都府京都市）  
広元、文筆官僚として京都で活躍
- ② 鎌倉（神奈川県鎌倉市）  
広元、鎌倉に下向し、源頼朝に仕える  
その後公文所（後の政所）別当となる
- ③ 相模国毛利荘（神奈川県厚木市）  
広元から季光が相続・土着し、地名から毛利と名乗る
- ④ 越後国佐橋荘（新潟県柏崎市）  
宝治合戦により、毛利荘を没収され、経光が越後国佐橋荘を本拠とする（後、北条毛利と南条毛利に分家）
- ⑤ 六波羅（京都府京都市）  
時親、幕府の六波羅評定衆を務める
- ⑥ 河内国加賀田郷（大阪府河内長野市）  
時親が在京料所として賜り、後に隠居



## 《毛利氏略系図》

相模国へ 毛利 越後国へ 安芸国へ  
大江 広元 — 季光 — 経光 — 時親 — 貞親 — 親衡 — 元春 — 広房 — 光房



### 3. 戦国大名毛利氏

#### (1) 元就の郡山入城まで

- ・ 14 世紀後半～ 時親の死後、曾孫師親（元春）を中心に内部抗争をしながらも土着
- ・ 明応 6 年(1497) 毛利弘元の次男として元就誕生（幼名：松寿丸）
- ・ 永正 3 年(1506) 弘元 39 歳で死去
- ・ 永正 13 年(1516) 興元 24 歳で死去、その子幸松丸が家督相続（叔父元就が後見）  
→この頃には、安芸北部の有力な国人領主(国衆)として、一目置かれる存在に

#### (2) 元就・隆元・輝元の時代

- ・ 大永 3 年(1523) 幸松丸の急死により、元就が当主として郡山城入城。元就長男、隆元誕生
- ・ 天文 9 年(1540) 出雲尼子氏による吉田侵攻(郡山合戦)→大内氏の援軍により撃退
- ・ 天文 15 年(1546) 元就が隆元に家督を譲り、二頭体制へ。この頃、安芸の盟主に
- ・ 弘治元年(1555) 厳島合戦で周防陶氏を破る →安芸・備後・周防・長門の戦国大名へ
- ・ 永禄 6 年(1563) 隆元、出雲出陣直前に急死(41 歳)
- ・ 永禄 9 年(1566) 出雲尼子氏を制圧し、中国地方をほぼ統一
- ・ 元亀 2 年(1571) 元就死去(75 歳)、孫の輝元が家督相続
- ・ 天正 4 年(1576) 足利義昭の備後鞆下向、織田氏との抗争始まる
- ・ 天正 10 年(1582) 本能寺の変により、秀吉軍と和睦→その後、豊臣大名へ
- ・ 天正 19 年(1591) 輝元、郡山城から広島城へ本拠地移転
- ・ 慶長 5 年(1600) 関ヶ原合戦により、毛利氏が滅封。安芸を去り周防・長門へ

### 4. 安芸毛利氏の本拠、郡山城

#### (1) 概要

- ・ 国史跡、日本百名城（広島県内では他に広島城と福山城）
- ・ 安芸高田市吉田町吉田、標高 390m、比高 190m。東麓に江の川、南麓に多治比川

#### (2) 歴史

- ・ 享徳 2 年(1453) 毛利当主の文書に「城誘」(郡山城の恒常的な維持管理が確認)
- ・ 15 世紀末には、元就の父弘元が郡山山上に居住(郡山本城か)
- ・ 16 世紀中頃に元就が本城から山頂部に移住し、全山城郭化
- ・ 天正期に輝元が中心部を石垣の城へ改修
- ・ 関ヶ原合戦後に廃城。島原の乱(1637)の後に破城？

#### (3) 遺構と遺物

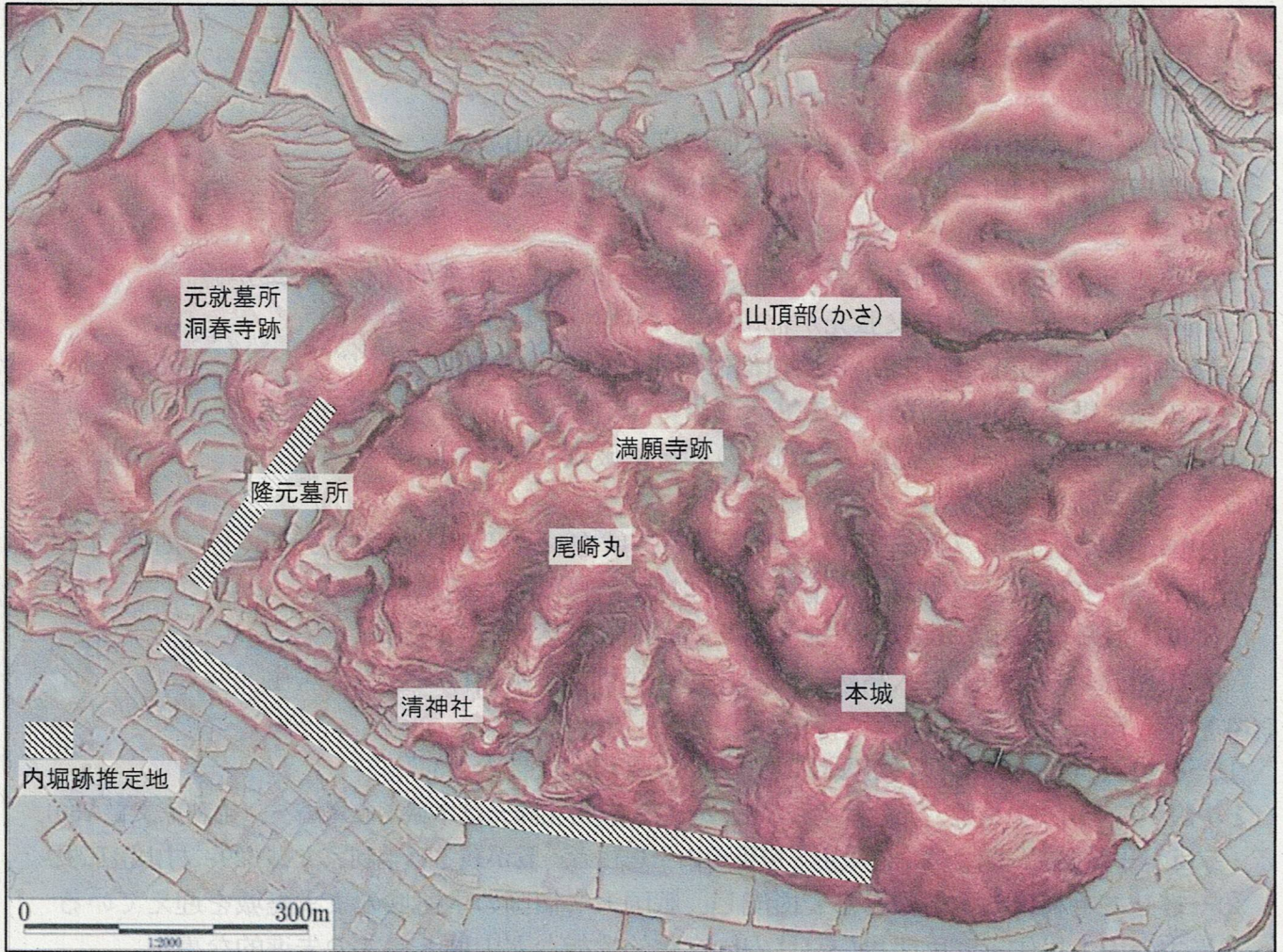
- ・ 中国地方最大規模(1 km四方)の戦国山城、航空レーザ測量で 300 ヶ以上の曲輪(平坦地)
- ・ 中心部に石垣跡、周辺部は土造り→戦国期最終段階の大名拠点城郭
- ・ 破城の痕跡→石垣の破却と埋没、築石の崩落・裏込め石の露出
  - ・ 山頂部から瓦片、輸入高級陶磁器片(威信財)を多数表採→当主の居住

#### (4) 特徴

- ①一次史料(当時の記録)が圧倒的に多い(毛利家文書など)
  - ・ 中腹から全山への拡張、元就は本城から「かさ」へ、当主隆元は本城から尾崎へ(毛利家文書 750)
  - ・ 家臣が一昼夜交代制で城番、城主・家臣の山上居住者一覧が残る(毛利家文書 629、村山檀那帳)
- ②一貫して毛利氏の本拠城として機能し、戦国大名領国の本拠城のまま廃城を迎えている
- ③当主の山上居住、家臣団集住、城内の文化的機能など山城としての先進的な事例  
→山全体が都市となった、戦国山城の集大成



安芸高田市吉田町 郡山城周辺地図(地理院地図に加筆)



郡山城赤色立体地図(安芸高田市教育委員会蔵)

## 5. 郡山城周辺史跡

### (1) 毛利元就墓所・洞春寺跡・毛利一族墓所

元就没後に墓所と菩提寺洞春寺建立。洞春寺は広島、山口へ。一族墓所は明治2年に設置

### (2) 毛利隆元墓所・常栄寺跡

隆元の菩提寺常栄寺。近世には山口へ

### (3) 清(すが)神社(祇園社)

樹齢千年の杉の巨木がそそり立つ毛利氏歴代の祈願所

### (4) 満願寺跡

古代より郡山に存在した山岳寺院。城内に取り込まれ、能狂言が演じられた

### (5) 青山城跡・光井山城跡

1540年の郡山合戦の際に、尼子軍により郡山城の正面に構築された巨大な陣跡

## 6. 毛利秀元と吉川広家

### (1) 「大江広元」ブランド

- ・墓所、棟札での大江姓→由緒ある公家の出身であること
- ・「広元」から毛利氏の通字は「元」→毛利輝元の後継者として「秀元」に
- ・「広元」から「広」が与えられ、吉川経言(つねのぶ)が「広家」に

### (2) 偉大なる「元就」

- ・元春は若い広家(経言)の生活態度に「元就の孫」であることを繰り返し論ず
- ・小早川隆景は、甥秀元の眼光を元就とよく似ていると評価

### (3) 第2期毛利両川体制

- ・「毛利両川」といわれた元春と隆景の死後、輝元を支えた「毛利両川」が広家と秀元
- ・対織田戦争では元春・隆景が、慶長の役や関ヶ原では広家と秀元が輝元の代理として出陣

### (4) 元就の教訓

- ・有名な「三本の矢」の逸話は、毛利元就の三人の子、隆元・元春・隆景に宛てた通称「三子教訓状」(毛利家文書405)が元と言われ、「吉川、小早川は一時のものであり、何より「毛利」の家を大事に！仲違いすると滅びる」と警告している。
- ・南宮山での秀元・広家の動きは、個々の思惑はあったにせよ、「毛利一族」としてどうするべきかを悩んだ上のもので、偉大な祖父元就の訓えが影響した可能性がある。
- ・これにより滅封はされたものの、結果として毛利本家は生き残り、3者(輝元：萩本藩、秀元：長府毛利、広家：岩国吉川)は微妙な関係を保ちながらも幕末まで存続した。つまり元就の訓えは生き続け、これが明治維新の原動力の一因となったともいえる。

## 7. おわりに

### ◆2025年、毛利輝元の没後400年

- ・西軍総大将輝元のふるさと安芸高田市でも関係する企画展等の記念行事を開催予定。ぜひ一度安芸高田市へお越しください！(広島駅からレンタカーが便利)
- ・毛利輝元(広島市・山口県萩市)、安国寺恵瓊ゆかりの地(広島市)、秀元ゆかりの地(山口県下関市)、広家ゆかりの地(北広島町・山口県岩国市)も併せてお勧め